

第3回

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進
するためのワーキンググループ

26 June 2023

ブリティッシュ・カウンシル 安田智恵

① IELTS
日本での実施概要



IELTSスコアの利用状況

Domestic Recognition: 日本でのIELTS

約130機関がIELTSを有効な英語力証明として受け入れ
現在約100の大学が入試要件の一部として採用
人事院、英語教員採用試験での活用

Global Recognition: 世界でのIELTS

全世界で年間350万人が留学・移住を目指して受験
世界で現在もっとも受験生の多い4技能英語テストの一つ
140ヶ国 11,000機関が採用
140ヶ国 1,200会場で実施
アメリカ合衆国でも 3,400以上の教育機関が採用



IELTS 実施形式の多様化

1. IELTS on Paper (IELTSペーパー版)

- 2018年 大学入試英語成績提供システム利用テストとして承認
- 現在全国約15都道府県で定期的開催
- 基本的に土曜日に実施

2. IELTS on Computer (IELTSコンピューター版)

- 2019年より導入 大学入試英語成績提供システム利用テストとして申請後中止決定
- 全国3都市の常設会場で実施 (大阪、名古屋、東京)
- 毎日実施が可能 試験日3日前まで登録受付

3. IELTS Online (IELTSオンライン版)

- 2022年導入開始 (地域限定) : British Councilは日本での導入を見送っています
- 一定の条件を満たした環境で受験が可能(自宅等を含む)

- ✓ 出題と採点基準はすべての形式で同じ。
- ✓ すべて正式な成績として利用可能。ただし3のIELTSオンライン版に関しては紙の成績証明書を発行せず、また成績証にオンラインでの受験と表示されます。

(参考: 英国ビザ申請用IELTSについても1と2の形式で実施中。)

IELTSと高等学校学習指導要領との親和性



英語5領域を測定する形式—生涯にわたって使える英語の習得

- 実際に使う英語を場面に即した出題によって英語の真のコミュニケーション力を測定
- 4技能を個別に測定、均等比重で総合力評価
- 自分の言葉として英語を運用する力を測定
- 英語5領域を測定する形式

➡大学入試英語成績提供システム申請時に、IELTSと指導要領との関連性について検証。



②現在の取り組み



大学入試利用で期待できる点：すでに導入・実施されている運営と規定

- 試験の質や水準等に関する第三者評価のあり方や調査研究の実施

IELTS Global Partners (IDP, Cambridge, British Council) 主導で試験の質、採点、受験者のパフォーマンスに関して、外部研究者による研究と調査を継続的に実施 (*1)

第三者機関 OfqualによるCEFRと採点基準、実際の結果に対する監査

第三者機関 ALTE - the Association of Language Testers in Europe is a Charitable Incorporated Organisation による監査

➡「Q-Mark」取得 (*3)

- 成績提供の利便性の向上

IELTSの成績認証システム(IELTS Test Report Form Verification Service)により、登録・認定された高等教育機関等ではオンラインでの成績確認やダウンロードが可能

- 公正・公平性 (問題集の出版などを含む試験実施団体内部での利益相反等に関する問題への対応のあり方)

英国政府管轄の第三者機関Office of Qualifications and Examinations Regulation

(Ofqual: 英国政府の資格と試験に関する監査機関)による監査によって公正・公平性を担保 (*2)

- 安全なテスト運営

世界的に規定されている運営規定に沿って、不正行為防止策とデータセキュリティーを担保した安全な運営

- 受験上の合理的配慮

全ての障害をもった受験生に個別に対応(日本英語検定協会では専門の窓口を設け、他のテストセンターで対応できなかった受験者を受け入れ) 宗教・ジェンダーで配慮が必要な受験にも対応

関連論文・情報

*1 IELTS研究論文・資料: <https://www.ielts.org/for-researchers/research-reports>

*2 大学入試英語4技能評価ワーキンググループ(第2回)資料: https://www.mext.go.jp/content/20191224-mxt_daigakuc02-000003550_16.pdf

Ofqual: <https://www.gov.uk/government/organisations/ofqual/about#who-we-are>

*3 ALTE Q-Mark: <https://www.alte.org/Setting-Standards>

現在の取り組み

- **会場の拡充:** 利便性の高い場所での開催
- **オンライン受験システムの整備:** 2022年運用開始⇒ British Councilとしては様々な状況を勘案し日本での導入を見送り
- **経済的困窮者に対する受験料金の減免:** 対象者の認定等に課題
 - 世界的な物価上昇の影響を受け、IELTSの受験料金は世界的に変更
 - 大学入学者選抜における活用状況を考慮し、特定のテストセンターで実施しているIELTSは料金を13年間変更していません。
 - 受験者個々の経済的な状況に応じた減免ではなく、広く対象受験者の利益となる方策をとっています。
 - オンラインで無料教材や模擬テストを公開

対応が難しい点

- **弁別性:** 9段階のバンドスコアで英語力を評価、A1/A2非表示
- **日本独自のシステムへの対応:** 身分証明書規定の順守→受験の際にパスポートが必須

大学入学者選抜における総合的な英語力評価 IELTS以外での取り組み

BCT-S

British Council TUFSS
Speaking Test for Japanese Universities

BCT-S (British Council TUFSS - Speaking Test for Japanese Universities) は、東京外国語大学とブリティッシュ・カウンシルが協働で開発した大学入試用スピーキング・テスト。(*3)

2022年「大学入学者選抜における好事例」として文部科学省Webページにて紹介

活用状況

2018-2020年度：東京外国語大学・国際日本学部（第二次試験前期日程）

2020年度以降：東京女子大学（一般選抜/英語Speaking Test利用型）

2021年度以降：東京外国語大学・全学一斉実施（第二次試験前期日程）

大学入試利用で期待できる点

- 国際的な基準のテストでスピーキング力を測定
- 日本の英語学習者を対象にした作問
国際的な基準を日本の大学入試で活用
- 大学のアドミッションポリシー、入試方法に合わせて導入が可能
既存の入試もそのまま活用しながらの導入
入学後の指導に活用
- 受験上の合理的配慮
障害をもった受験生に個別に対応、宗教・ジェンダーで配慮が必要な受験にも対応
- 公正・公平性
Oqualの基準を基にした監査や、採点体制、外部研究者の検証によって公正・公平性を担保
採点基準を含むテクニカルマニュアルを公開(*4)

関連情報

*3 大学入試のあり方に関する検討会議(第10回)配布資料: https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_daigakuc02-000008002_2.pdf

*4 Technical Reports: <https://www.britishcouncil.org/exam/aptis/research/publications/technical>

Thank you